エコアクション21
認証番号 0007842

環境経営レポート

R6

共栄環境開発株式会社

発行日：令和 7 年 4 月 22 日

運用期間：令和 6 年 1 月～令和 6 年 12 月

目次

環境経営方針 3
組織の概要 4
■ 会 社 概 要 4
■ 所　在　地 4
■ 会社組織図 4
組織の概要 5
■ エコアクション２１実施体制 5
■ 会 社 沿 革 5
事業の概要 6
■ 認証登録の対象組織、活動 6
■ 関連事業所及び活動 6
事業の概要 7
■ 料　　金 7
■ 産業廃棄物収集運搬業許可　取得状況表 7
事業の概要 8
■ 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可　取得状況表 8
■ 産業廃棄物処分業許可　取得状況表 8
事業の概要 9
■ 中間処理施設　概要 9
■ 中間処理の概要 9
事業の概要 10
■ その他の許可　取得状況表 10
事業の概要 11
■ 保有車両の種類と台数 11
環境経営目標と評価　全体 12
■ 環 境 経 営 目 標 12
■ 前年度実績 12
環境経営目標と評価　全体 13
■ 環境経営目標の達成状況と評価 13
環境経営目標と評価（化学物質の管理表） 14
■ 補足　化学物質の管理表 14
環境経営目標と評価（目標設定の考え方） 15
■ 補足　環境経営目標の設定に関する考え方 15
環境経営計画の取組結果とその評価 16
■ 環境経営目標の達成状況と評価 16
当社の環境経営目標と SDG s の関わり 17
実施した取組内容、次年度の目標及び計画 18
■ 環境経営計画に基づき実施した取組内容（一部） 18
■ 次年度の環境経営目標及び環境経営計画 18
環境負荷実績　全体 19
環境負荷実績 20
環境関連法規等の遵守状況の確認及び 21
代表者による全体評価と見直しの結果 22
■ 全 体 評 価 22
■ 見直すべき点 22

環境経営方針

環 境 理 念

私達は、事業活動において、省エネルギー及びリサイクルを推進し、地域の環境保全に寄与する企業を目指します。

行 動 指 針

1. 事業活動に伴う環境負荷を低減する為、二酸化炭素の排出量、エネルギーの使用量、水の使用量、廃棄物の排出量、輸送における燃料使用量の削減に努めます。

2. 特に収集運搬車両のエコドライブを実践し、省エネと排気ガスの抑制に取り組みます。

3. 受託した産業廃棄物の運搬先は、再資源化されている処分業者を優先的に選定し、リサイクル率の向上を図ります。

4. 作業機材や作業工程に、環境負荷の低減に資する工法や機材を選定し取り入れるよう努めます。

5. 省エネ、省資源に対応したグリーン製品を優先的に購入します。

6. 積極的に社会貢献活動（環境保全活動）に取り組み、地域環境保全に寄与します。

7. 事業に関連した環境に関する法規等を遵守します。

8. 環境経営方針は定期的に見直し、全社員に周知徹底、意識高揚をはかり、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。また、環境経営レポートは一般に開示します。

制定日　平成２３年４月１日　　改訂日　令和３年１０月２２日

共栄環境開発株式会社
代表取締役　久留須　智子

組織の概要

■ 会 社 概 要

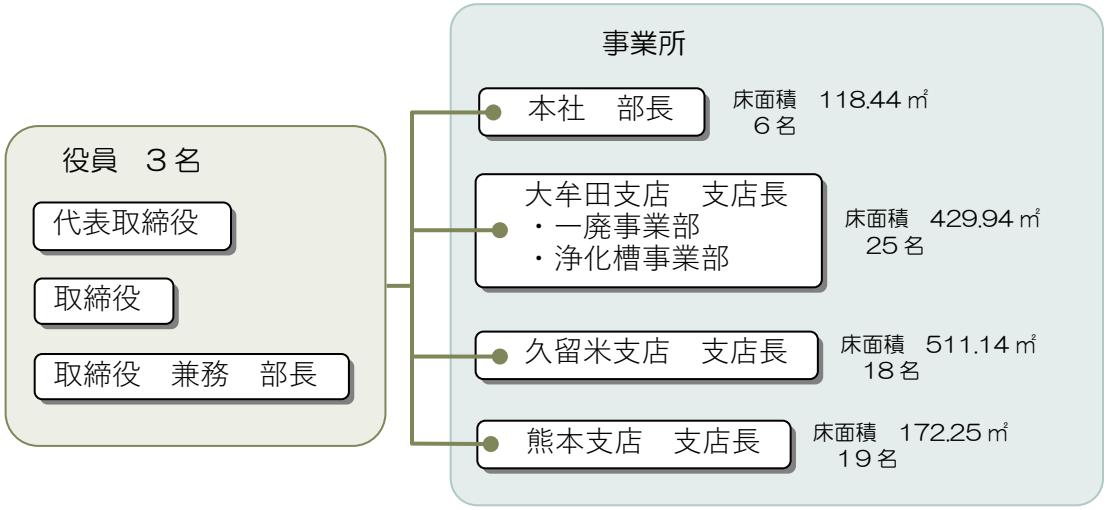
社　　号／共栄環境開発株式会社
代 表 者／代表取締役　久留須　智子
設　　立／昭和 38 年 2 月 7 日
資 本 金／払込 4,100 万円
売 上 高／1,275 百万円（令和 6 年度）
事業年度／1 月 1 日～12 月 31 日
ホームページ URL／https://www.kyoei-ed.com
メールアドレス／info@kyoei-ed.com

■ 所　在　地

本　　社　（〒836-0057）福岡県大牟田市汐屋町 5 番地の 15
TEL：0944-52-6732　/　FAX：0944-54-1525
大牟田支店　（〒836-0073）福岡県大牟田市船津町 326-2
TEL：0944-55-1231　/　FAX：0944-56-9532
久留米支店　（〒839-0806）福岡県久留米市東合川千出町 2-1
TEL：0942-45-3311　/　FAX：0942-45-3317
熊 本 支 店　（〒861-4101）熊本県熊本市南区近見 8 丁目 8-45
TEL：096-358-5611　/　FAX：096-358-5118

■ 会社組織図

総員　71　名　　総床面積　1231.77 ㎡



組織の概要

■　エコアクション２１実施体制

環境管理責任者：　部長　古賀　和幸　（連絡先：0944-52-6732）
実施担当者　　：　総務部　担当者　　（連絡先：　　同上　　）
EA２１委員会　：　取締役
　　大牟田支店　支店長
　　久留米支店　支店長
　　熊本支店　支店長
　　鉄道事業室　部長
EA21 事務局　：　総務部　担当者

■　会 社 沿 革

昭和 29 年　９月　創業
昭和 38 年　２月　共栄衛生有限会社　設立
昭和 47 年　３月　社名を共栄環境開発有限会社に変更
昭和 55 年　２月　本社ビル完成に伴い現住所に移転
昭和 57 年　９月　玉名営業所開設
昭和 58 年　７月　筑後環境分析センターを寄付
昭和 60 年　５月　資本金を 1000 万円に増資
昭和 60 年 12 月　筑後環境分析センターを寄付（(財）有明環境整備公社設立）
昭和 61 年　４月　熊本営業所開設
平成　３年　５月　社名を共栄環境開発株式会社に変更
平成　３年　７月　熊本支店を近見に新設
平成　８年　８月　久留米支店を梅満町に新設
平成 10 年 11 月　久留米支店を東合川干出町に新築移転
平成 11 年　４月　大牟田支店を船津町に新設移転
平成 20 年 11 月　資本金 2000 万円に増資
平成 24 年　２月　資本金 4100 万円に増資

事業の概要

■　認証登録の対象組織、活動

認証・登録組織名：共栄環境開発株式会社（福岡県大牟田市汐屋町５番地の１５）

認証・登録番号　：０００７８４２　　認証・登録日／2011 年 12 月 20 日

更新・登録日／2023 年 12 月 20 日

有　効　期限／2025 年 12 月 19 日

（事業内容）

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業（中間処理）、浄化槽維持管理、し尿収集運搬の委託業務、建設業（土木、管、浚渫）、伏び工事

■　関連事業所及び活動

● 本　　社

総務、経理、経営企画

● 大牟田支店

浄化槽維持管理、排水処理施設の技術管理、関連機器の修理、管工事及び排水設備工事、し尿収集運搬業務（大牟田市からの委託業務）

● 久留米支店

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、産業廃棄物処分業（移動式脱水車による汚泥脱水中間処理）、浚渫業（各種ピット、側溝、水路、管渠内）、テレビカメラ車による管渠内調査・補修、伏びの維持管理業務（鉄道事業室）

● 熊本支店

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、産業廃棄物処分業（移動式脱水車による汚泥脱水中間処理）、浚渫業（各種ピット、側溝、水路、管渠内）、テレビカメラ車による管渠内調査・補修

● 船津車庫

業務車両の駐車場のみ

エコアクション２１の取り組み範囲は、上記の全組織・全活動を対象とします。

※ただし建設業においては、長期の建設現場をもたない業務が主であり、事務所、車両等も廃棄物処理業と共有していて、環境への負荷を分けて算出することが困難であるため、環境目標、環境活動等は全て廃棄物処理業と合わせて考えるものとし、あきらかに住み分けができる浚渫泥のみ環境負荷の記録項目に追加しています。

事業の概要

■ 料　　金

業務の内容に応じてお見積りいたします。

■ 産業廃棄物収集運搬業許可　取得状況表

	官庁名	許可取得（更新）年月日 / 許可期限	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず・陶磁器くず・及びコンクリートくず	鉱さい	がれき類	動物のふん尿	ばいじん	石綿含有産業廃棄物を含む
優良	福岡県 04000000741	R4.2.2 / R11.2.1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	熊本県 04305000741	R3.9.1 / R10.8.31	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	佐賀県 04101000741	R3.4.14 / R10.4.13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	長崎県 04200000741	R2.11.27 / R9.11.26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	大分県 04407000741	R3.2.28 / R10.2.27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	宮崎県 04504000741	R6.1.26 / R13.1.25	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	鹿児島県 04608000741	R5.10.25 / R12.10.24	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	山口県 03500000741	R3.6.16 / R10.6.15	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	広島県 03400000741	R4.2.6 / R11.2.5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	岡山県 03300000741	R4.12.14 / R11.12.13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

※積替え保管施設はありません。

※左に「優良」の文字を表示している箇所は、「優良産業廃棄物処理業者認定」を取得しているという意味です。これは、次ページ（８ｐ）も同様です。

事業の概要

■　特別管理産業廃棄物収集運搬業許可　取得状況表

	官庁名	許可取得（更新）年月日 許可期限	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	鉱さい	ばいじん	廃石綿等
優良	福岡県 04050000741	R3.9.21 R10.9.20	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	熊本県 04355000741	R3.5.7 R10.5.6	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	佐賀県 04151000741	R7.1.11 R14.1.10	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	長崎県 04250000741	R5.12.28 R12.12.27	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	大分県 04457000741	R5.10.26 R12.10.25	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	宮崎県 04554000741	R4.9.15 R11.9.14	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	鹿児島県 04652000741	R4.4.30 R11.4.29	●	●	●	●	●		●	●
優良	山口県 03550000741	R3.12.16 R10.12.15	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	広島県 03450000741	R4.2.6 R11.2.5	●	●	●	●	●	●	●	●
優良	岡山県 03350000741	R4.12.14 R11.12.13	●	●	●	●	●	●	●	●

■　産業廃棄物処分業許可　取得状況表

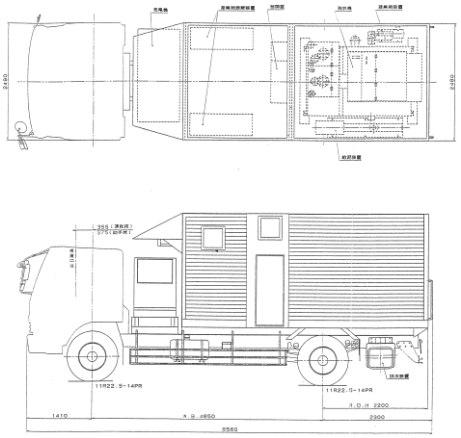
	官庁名	許可取得（更新）年月日 許可期限	汚泥（有機性）	
優良	福岡県 04020000741	R4.2.2 R11.2.1	●	
優良	久留米市 11220000741	R4.2.2 R11.2.1	●	
優良	熊本県 04325000741	R3.10.13 R10.8.31	●	移動式の汚泥脱水車を排出事業所内に搬入し、汚泥脱水（中間処理）を行います。 ※詳細→９Ｐ
優良	熊本市 08123000741	R6.4.13 R13.4.12	●	
優良	佐賀県 04121000741	H31.4.14 R8.4.13	●	

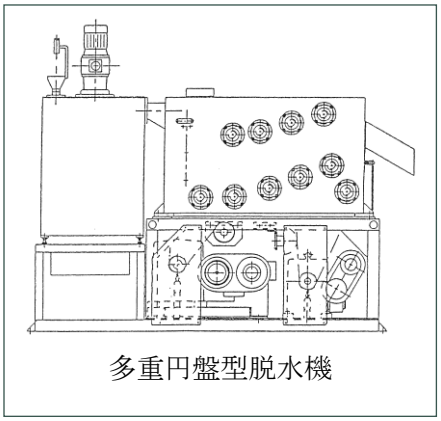
事業の概要

■　中間処理施設　概要

施 設 の 種 類：移動式汚泥脱水車
処　理　方　法：多重円盤型脱水方式（㈱ヘリオス社製脱水機　SP-1000）
処理する廃棄物：汚泥（有機性のものに限る）
処　理　能　力：最大　9㎥ ／時

※上記の処理能力は計算上の数字です、実際は汚泥の性状等によって変動します。





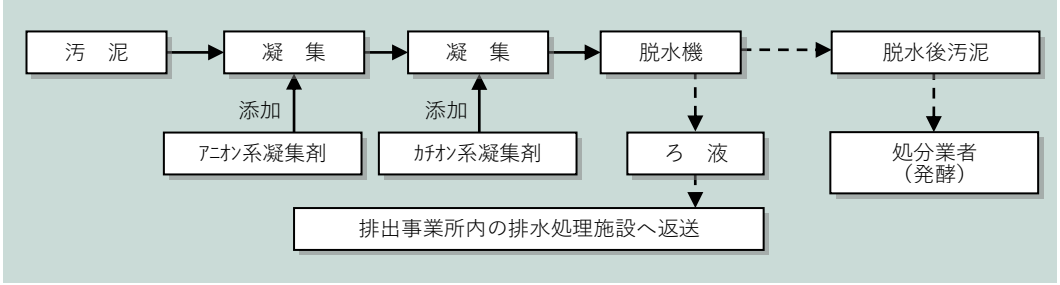
多重円盤型脱水機

※環境汚染防止対策

脱水作業により発生した排水は一度脱水車の水受けタンクに受け、排出事業所内の水処理施設に返すため、水質汚染は発生しません。施設の稼働には防音型の発電機を用い、脱水機はステンレス板で被い囲む構造としているため、振動・騒音・悪臭の発生も軽微です。

■　中間処理の概要

移動式の汚泥脱水車のため、排出事業所内へ施設を搬入し、排出事業所内の汚泥貯留槽等よりポンプで直接汚泥を脱水車に引き込み、脱水処理を行います。脱水後の汚泥は密閉型のフタ付コンテナに収納し、脱着装置付コンテナ専用車で発酵処理施設へ搬入し処分します。



■　その他の許可　取得状況表

●　一般廃棄物収集運搬

大牟田市	委託	事業範囲	し尿収集運搬
	許可	事業範囲	浄化槽汚泥、ディスポーザー排水処理汚泥
		許可番号	第２号
		許可期限	R6.4.1～R8.3.31
久留米市	許可	事業範囲	燃やせるごみ、空きカン・空きビン及びペットボトル
		許可番号	第 1020 号
		許可期限	R6.4.1～R8.3.31
川棚町	限定許可	事業範囲	し尿及び浄化槽汚泥
		許可番号	第 71 号
		許可期限	R7.5.2～R9.5.1
		限定条件	ハラサンギョウ(株)への搬入に限る。
熊本市	許可	事業範囲	ごみ（事業ごみと臨時の家庭ごみ）
		許可番号	第 21R-171 号
		許可期限	R7.4.1～R9.3.31

●　浄化槽保守点検・清掃

大牟田市	許可	事業範囲	浄化槽清掃業務
		許可番号	第 2 号
		許可期限	R6.6.1～R7.5.31
福岡県	登録	事業範囲	浄化槽保守点検業務
		登録番号	第 426 号
		登録期限	R7.4.1～R10.3.31

●　建設工事

国交大臣	許可	事業範囲	建設業許可（土木、管、しゅんせつ）
		許可番号	（般 - 4）第 16063 号
		許可期限	R5.2.16～R10.2.15
大牟田市	指定	事業範囲	排水設備工事
		指定番号	17
		指定期限	R3.7.10～R8.7.9

■　保有車両の種類と台数

種類	台数
特殊強力吸引車	12
強力吸引車	3
脱着装置付コンテナ専用車	6
クレーン付平ボディー車	2
塵芥車	2
ダンプ車	3
Wキャブダンプ車	1
トラック	5
超高圧洗浄車	1
高圧洗浄車	7
給水車	4
下水道管渠内調査用 TV カメラ搭載車	2
移動式汚泥脱水車	1
バキューム車（浄化槽）	6
バキューム車（一廃）	3
ホロ付トラック	1
バン（浄化槽管理用等）	8
ワゴン車（浄化槽管理用等）	2
営業車	20
軽自動車	7
路面清掃車	2
散水車	1
原付バイク	1
合　計	100

環境経営目標と評価

■ 環 境 経 営 目 標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値 R5年度実績	増減値	目標値 R6年度	増減値	目標値 R7年度	増減値	到達目標値 R8年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	575014.6	-0.5%	572139.5	-1.0%	569264.5	-1.5%	566389.4
▸	電気使用量の削減	kWh	87278.0	-0.5%	86841.6	-1.0%	86405.2	-1.5%	85968.8
▸	ガス使用量の維持	m^3	192.0	±0%	192.0	±0%	192.0	±0%	192.0
▸	燃料使用量の削減	L	209685.5	-0.5%	208637.1	-1.0%	207588.6	-1.5%	206540.2
②	廃棄物排出量の削減	kg	8145.7	-0.5%	8104.9	-1.0%	8064.2	-1.5%	8023.5
③	水使用量の削減	m^3	1371.3	-0.5%	1364.4	-1.0%	1357.6	-1.5%	1350.7
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	515	±0人	515	±0人	515	±0人	515
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.475kg-CO_2/kWh」を使用した。

■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値 R4年度実績	増減値	目標値 R5 年度		実績値 R5 年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	592924.3	±0%	592924.3		575014.6	103.1%
▸	電気使用量の削減	kWh	95513.0	±0%	95513.0		87278.0	108.6%
▸	ガス使用量の維持	m^3	87.7	±0%	87.7		192.0	-18.9%
▸	燃料使用量の削減	L	215382.3	±0%	215382.3		209685.5	102.6%
②	廃棄物排出量の削減	kg	7446.4	±0%	7446.4		8145.7	90.6%
③	水使用量の削減	m^3	1208.0	±0%	1208.0		1371.3	86.5%
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施		実施している	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	546	±0 人	546		515	94.3%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.475kg-CO_2/kWh」を使用した。

環境経営目標と評価

■　環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値 R5年度	増減値	目標値 R6年度		実績値 R6年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	575014.6	−0.5%	572139.5		618406.7	91.9%
▸	電気使用量の削減	kWh	87278.0	−0.5%	86841.6		88021.0	98.6%
▸	ガス使用量の維持	m^3	192.0	±0%	192.0		164.7	114.2%
▸	燃料使用量の削減	L	209685.5	−0.5%	208637.1		226384.7	91.5%
②	廃棄物排出量の削減	kg	8145.7	−0.5%	8104.9		6827.5	115.8%
③	水使用量の削減	m^3	1371.3	−0.5%	1364.4		1397.9	97.5%
④	グリーン購入の推進	品目数	活動の実施	—	活動の実施		実施している	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	515	±0 人	515		479	93.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施		実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO_2 排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.475kg-CO_2/kWh」を使用した。

※達成状況評価基準　‣達成率 100%以上=○　‣達成率 100%未満 70%以上=△　‣達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	△	燃料および電気使用量の削減が進まず、二酸化炭素排出量の削減目標には届かなかった。燃料使用量は業務量の増加と比例しており、今年度は業務量が増加している事から燃料使用量の増加には一定の妥当性が認められる。また、電気使用量についても大幅な増加はなく、現時点で大きな問題とは捉えていない。今後も引き続き環境負荷の低減に取り組むとともに、設備投資等も視野に入れ、エネルギー使用量のさらなる抑制に努めていく。
▸	電気使用量の削減	△	目標達成には届かなかったものの、達成率は 98.6%と高く、事業所別では熊本支店が目標を達成した。その他の事業所では未達となったが、節電活動については継続的に実施しており、過去数年にわたって段階的な削減を達成してきた。そのため、さらなる大幅な削減は難しい状況にあるものの、引き続き環境負荷の低減に向けた取り組みを継続していく。
▸	ガス使用量の維持	○	本社および大牟田支店において目標の達成には至らなかったものの、熊本支店においては余裕を持って目標を達成することができた。これにより、全体としての目標は無事に達成することができた。今後も各拠点の状況を踏まえた対策を進めつつ、引き続き地道な取り組みを継続し、環境負荷の低減に努めていく。
▸	燃料使用量の削減	△	大牟田支店のみが燃料使用量における目標を達成したが、全体的には使用量が増加する結果となった。主な要因としては、売上高の増加に伴う業務量の増加が挙げられ、当社業務においては業務量と燃料使用量が比例する関係にあることから、ある程度やむを得ない状況であったと考える。今後は、業務効率の向上など、燃料使用量の抑制につながる改善策を検討し、持続可能な業務運営を目指したい。
②	廃棄物排出量の削減	○	目標を達成することができた。継続的な取り組みの成果であり、来年度も活動を継続し、更なる目標達成に向けて引き続き取り組んでいく。
③	水使用量の削減	△	本社、大牟田支店、熊本支店においては目標を達成するには至らなかったが、事業所ごとに明確な理由があり、いずれも一時的かつ限定的な要因であると判断している。今後はこれらの要因に対して具体的な対策を講じることにより、継続的な改善と目標達成が可能であると見込んでいる。
④	グリーン購入の推進	○	環境配慮の観点から、物品や備品の調達においては「グリーン製品」を優先的に選定している。今後も、引き続き環境に配慮した購買活動を推進していく。
⑤	グリーン活動への参加	△	本年度は全事業所で目標達成には至らなかったものの、地域貢献活動の一環として継続している「事業所近隣の清掃活動」は、年間を通じて安定的に実施された。業務量の増加により一部では参加者数の減少も見られたが、今後は社内での周知・啓発を強化し、より多くの従業員が無理なく参加できる体制づくりを進めていきたい。
⑥	化学物質の適正管理	○	環境活動計画に準じて実施されている。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画に準じて実施されている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	○	環境活動計画に準じて実施されている。

環境経営目標と評価（化学物質の管理表）

■　補足　化学物質の管理表

	年度	種別	化学物質の種類または薬品名	単位	年間購入量
化学物質購入量	R6年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
				kg	
				kg	
		購入した化学薬品（参考）	(Y-ST-1)ストール1号　10L×1【尿石除去剤】	kg	20.0
			アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	320.0
			ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	0.0
			ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	0.0
			ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	0.0
			次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	60.0
			東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
			水処理剤　XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	825.0
			水処理剤　XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	1,875.0
			水処理剤　XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
			グリスノン【グリス除去剤】	kg	40.0
	R5年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
				kg	
				kg	
		購入した化学薬品（参考）	(Y-ST-1)ストール1号　10L×1【尿石除去剤】	kg	10.0
			アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	290.0
			ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	0.0
			ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	0.0
			ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	0.0
			次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	60.0
			東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
			水処理剤　XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	825.0
			水処理剤　XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	1,860.0
			水処理剤　XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	75.0
			グリスノン【グリス除去剤】	kg	40.0
	R4年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
				kg	
				kg	
		購入した化学薬品（参考）	(Y-ST-1)ストール1号　10L×1【尿石除去剤】	kg	30.0
			アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	350.0
			ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	0.0
			ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	0.0
			ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	0.0
			次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	100.0
			東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
			水処理剤　XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	975.0
			水処理剤　XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	1,875.0
			水処理剤　XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
			グリスノン【グリス除去剤】	kg	0.0

環境経営目標と評価（目標設定の考え方）

■　補足　環境経営目標の設定に関する考え方

下記の考え方を取りまとめ、これに従って環境目標を設定した。

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	R5 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 8 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。ただし、燃料使用量が業績向上に伴って増加している場合には、二酸化炭素排出量にも大きく影響する。その場合は、電気使用量が削減できていれば評価に値すると考える。
▸	電気使用量の削減	kWh	R5 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 8 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。削減の対策として、遮熱フィルムの貼付け、エアコンの取替え、蛍光灯の LED 化なども合わせて検討する。
▸	ガス使用量の維持	m^3	削減するというほど使用しているものでも無い上、用途（稀にお茶を煮出す、従業員用のシャワー利用）として、意図的に削減できるものでもない。毎年、同量を維持することを目標とする。
▸	燃料使用量の削減	L	R5 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 8 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。主にエコドライブの実施。低燃費車の導入や、過積載防止という取り組みも燃料使用量の削減に影響するが、それについては以下の項目⑦及び⑧の目標として取り組む。ただし、業務の増減によって左右されるため、実績評価にあたっては、その年の業績と比べて評価しなければならない。業績が向上した年は、燃料使用量が増えて当然である。また、エンジンを利用して機械を稼働させる吸引車が殆どであり、走行距離と給油量から燃費を計算できるものではないため、燃費による評価は採用しない。
②	廃棄物排出量の削減	kg	R5 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 8 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。
③	水使用量の削減	m^3	R5 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 8 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。
④	グリーン購入の推進	品目数	数値目標は設定せず、優先的に購入する事を推進する。現場資材については品質、性能を優先するため、こちらから指示することはできない。基本的に、事務用品及び福利厚生品を対象として取り組む。
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	R5 年度時点で大部分の従業員が活動に参加している。今以上に参加人数を増やす事は難しい為、現状の維持を目指す。
⑥	化学物質の適正管理	—	適正管理の実施を目標とする。適正管理の意味するところは、「①購入量を記録する」「②化学薬品を購入した場合はSDSを取得する」「③購入量とSDS情報から、PRTR 法に該当する有害物質の量を記録する」ということ。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	収集運搬においては、過積載の防止を目標とし、毎年5月と11月を過積載防止月間と設定して取り組みの状況を確認する。 処分（中間処理）においては、脱水後の汚泥を再資源化（堆肥化、発酵）の処分場へ搬入することを目標とする。この結果については、「環境への負荷の状況」に記載する量で確認できる。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	建設業と言っても、建築、解体、大規模な工事等を行っているわけではない。施工時に環境への配慮として実施すべき項目を設定し、それが取り組まれているかどうかで評価する。

■　環境経営目標の達成状況と評価

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▸電気使用量の削減	1	昼休み中は消灯する。	○	取り組みは確実に実施されており、安定した運用が維持されています。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	目的を理解した上で、意識的に取り組む姿勢が定着しています。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	△	寒波時には柔軟に設定温度を調整し、無理のない範囲で対応できていました。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月の大掃除日に計画的に実施されています。
	▸ガス使用量の維持	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	確認の意識付けができており、閉め忘れ防止にしっかり取り組めていました。
	▸燃料使用量の削減	1	エコドライブを実施する。	○	全員が意識して取り組んでおり、継続的に実施されています。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	乗車前確認の徹底を目標に、全員で意識を共有して取り組めています。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前のルート確認により、効率的な最短走行が実施されています。
②	廃棄物排出量の削減	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	ゴミ排出前の計測が定着しており、確実に記録できています。
		2	分別を徹底する。	○	分別は確実に実施されており、判断が難しいものも調べて適切に対応できています。
③	水使用量の削減	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	節水への意識が高く、継続的に取り組めています。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	確認漏れもなく検針票の確認が確実に行われており、管理状況は良好です。
④	グリーン購入の推進 （優先的に購入）	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	グリーン製品の優先購入が実施されています。
⑤	グリーン活動への参加 ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	479	実施できています。今後はより参加人数を増やせるように業務調整をお願いします。
		2	行政、団体主催の環境イベント（ゴミ拾いや環境啓蒙など）に参加する。	○	十月に近隣地域で開催された清掃活動に参加しました。
⑥	化学物質の適正管理 （適正管理を確実に実施）	1	購入した薬品のSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	○	実施できています。継続してください。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 （取り組みを確実に実施）	1	（収集運搬）過積載を防止する。	○	過積載防止が確実に実施されており、法令遵守と安全運行が徹底されています。
		2	（処分）脱水後汚泥は、基本的に再資源化（堆肥化、発酵）を行う処分場に処分を委託する。	○	実施できています。全量、再資源化を行う処分場に委託しています。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 （取り組みを確実に実施）	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	適切な回転数で稼働できています。継続してください。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	事前に作業計画を立て、最短の作業時間で施工できています。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	周辺環境への配慮を行い、養生等の対策を講じた上で施工が実施できています。今後も継続してください。

当社の環境経営目標とSDGｓの関わり

・SDGsに関係する当社の環境経営目標一覧表

No.	項目	実施内容	関係するSDGs17の目標のアイコン
①	二酸化炭素排出量の削減		
▸	電気使用量の削減	昼休み中は消灯する。	
		人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	
		エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	
		エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	
▸	ガス使用量の維持	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	
▸	燃料使用量の削減	エコドライブを実施する。	
		始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	
		運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	
②	廃棄物排出量の削減	ゴミの排出重量をかならず記録する。	
		分別を徹底する。	
③	水使用量の削減	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	
		水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	
④	グリーン購入の推進	製品購入にあたっては、可能な限りグリーン製品を購入する。	
⑤	グリーン活動への参加	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	
		行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	
⑥	化学物質の適正管理	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	(収集運搬)過積載を防止する。	
		(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	
		最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	
		周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	

実施した取組内容、次年度の目標及び計画

■　環境経営計画に基づき実施した取組内容（一部）

- 営業車は、基本的にプリウスやアクアなどのハイブリッド車か低燃費車を購入している。
- 社内のプリンタ複合機は、省電力（スリープ）モード付きで、人感センサーで起動するタイプのものを購入している。（富士ゼロックス製）
- 営業所の室内灯は全てLED蛍光灯を使用している。
- 夏はクールビズ、冬はウォームビズを推奨している。
- 作業員の制服は、夏服も冬服もグリーン製品を使用している。
- 室温管理のために、室温計を設置している。
- 重要書類の処分は、クロネコヤマトの「機密文書リサイクルサービス（溶解処分）」を利用している。
- 重要度の低い社内書類の印刷には裏紙を使用している。

■　次年度の環境経営目標及び環境経営計画

令和６年度の環境経営目標に対する達成状況および評価を実施した結果、令和６年度から令和８年度までの中長期環境経営計画について、現時点で内容の変更を要する事項はないことを確認した。これを踏まえ、次年度（令和７年度）においては、以下に掲げる目標の達成を目指し、引き続き計画的かつ継続的な環境活動に取り組む。

中期目標計画（R6年度～R8年度）

No.	項目	単位	規定値 R5年度実績	増減値	目標値 R6年度	増減値	目標値 R7年度	増減値	到達目標値 R8年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	575014.6	-0.5%	572139.5	-1.0%	569264.5	-1.5%	566389.4
▸	電気使用量の削減	kWh	87278.0	-0.5%	86841.6	-1.0%	86405.2	-1.5%	85968.8
▸	ガス使用量の維持	m^3	192.0	±0%	192.0	±0%	192.0	±0%	192.0
▸	燃料使用量の削減	L	209685.5	-0.5%	208637.1	-1.0%	207588.6	-1.5%	206540.2
②	廃棄物排出量の削減	kg	8145.7	-0.5%	8104.9	-1.0%	8064.2	-1.5%	8023.5
③	水使用量の削減	m^3	1371.3	-0.5%	1364.4	-1.0%	1357.6	-1.5%	1350.7
④	グリーン購入の推進	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人（のべ数）	515	±0人	515	±0人	515	±0人	515
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮　※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO2排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.475kg-CO_2/ kWh」を使用した。

環境負荷実績

1．事業の規模

環境への負荷	単位	R4年	R5年	R6年	前年度比
売上高	千円	1,117,555	1,162,285	1,275,357	109.7%
従業員	人	74	76	76	100.0%
床面積	㎡	1231.77	1231.77	1231.77	100.0%

2．環境への負荷の状況（取りまとめ表）

環境への負荷			単位	R4年	R5年	R6年	前年度比	重要性		
								目標項目	取組項目	監視項目
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素		$kg-CO_2$	592924.3	575014.6	618406.7	108%	○		
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量		t	2890.2	2739.7	2419.8	88%			○
	特別管理産業廃棄物収集運搬量		t	15.2	7.6	8.5	111%			○
	産業廃棄物中間処理量		t	580.0	540.1	777.7	144%			○
	▶ うち再資源化等量		t	580.0	540.1	777.7	144%			○
	中間処理後の産廃の処分量		t	97.3	78.7	108.5	138%			○
	▶ うち再資源化等量		t	97.3	78.7	108.5	138%	○		
	浄化槽汚泥（一廃）の収集運搬量		t	8420.8	8368.0	8096.1	97%			○
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	1867.8	1798.5	1775.9	99%			○
		単純焼却	kg	1006.9	1069.1	1041.5	97%			○
		最終処分	kg	21.8	8.0	10.2	128%			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	4550.0	5270.0	4000.0	76%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	廃棄物排出量合計		kg	7446.4	8145.7	6827.5	84%	○		
④-1 総排水量	公共用水域		㎥	267.0	328.0	368.0	112%			○
	下水道		㎥	941.0	1043.3	1029.9	99%			○
	排水量合計		㎥	1208.0	1371.3	1397.9	102%	○		
	BOD排出量		g	21360.0	6888.0	7728.0	112%			○
④-2 水使用量	上水		㎥	1208.0	1371.3	1397.9	102%		○	
⑤化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質		kg	0.0	0.0	0.0	—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
			kg				—		○	
⑥ エネルギー使用量	購入電力（新ｴﾈﾙｷﾞｰを除く）		kWh	95513.0	87278.0	88021.0	101%	○		
	化石燃料	軽油	L	181690.1	176429.9	193587.0	110%			○
		ガソリン	L	33027.1	32547.6	31984.8	98%	○		
		灯油	L	665.1	708.0	812.9	115%	○		
		プロパンガス	㎥	80.7	168.0	137.7	82%	○		
		都市ガス	㎥	7.0	24.0	27.0	113%			○
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
	その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○
⑦ 物質使用量	資源使用量		kg	1023.5	806.5	745.0	92%			○
	循環資源はありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質量等	該当するものはありません		—	—	—	—	—	—	—	—
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥		t	1060.0	1090.0	1100.0	101%			○
	▶ うち再資源化		t	1060.0	1090.0	1100.0	101%			○

※　集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

② 受託した産業廃棄物の処理量

	処理方法等		廃棄物種類等	処分方法等	R4年 処理量(t)	R5年 処理量(t)	R6年 処理量(t)
産業廃棄物の処理量	収集運搬		燃え殻		56.6	27.8	31.4
			汚泥		2249.0	2249.6	1958.1
			廃油		0.8	0.8	5.5
			廃酸		0.0	0.0	0.0
			廃アルカリ		314.0	157.5	103.8
			廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類		5.0	9.8	7.5
			紙くず		0.0	0.0	0.0
			木くず		0.0	7.2	0.1
			繊維くず		0.0	0.0	0.0
			動・植物性残さ		235.0	235.9	219.3
			ゴムくず		0.0	0.0	0.0
			金属くず		19.5	2.4	1.1
			ガラスくず・陶磁器くず及びｺﾝｸﾘｰﾄくず		6.8	15.9	5.7
			鉱さい		0.0	0.0	6.2
			動物のふん尿		0.0	0.0	0.0
			がれき類		3.5	32.7	65.6
			ばいじん		0.0	0.0	0.0
			石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0
					0.0	0.0	15.5
	収集運搬量 合計				2890.2	2739.7	2419.8
	収集運搬（特別管理）		特管廃油		0.0	0.0	0.0
			特管廃酸		5.0	0.0	0.0
			特管廃アルカリ		0.6	0.0	0.0
			特管燃え殻		9.0	7.6	8.5
			特管汚泥		0.6	0.0	0.0
			特管鉱さい		0.0	0.0	0.0
			特管ばいじん		0.0	0.0	0.0
			特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0
					0.0	0.0	0.0
	収集運搬量 合計				15.2	7.6	8.5
	中間処理		有機性汚泥	脱水	580.0	540.1	777.7
		うち再資源化	有機性汚泥	脱水	580.0	540.1	777.7
			再資源化等量 小計		580.0	540.1	777.7
	中間処理量 合計				580.0	540.1	777.7
	中間処理後の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
					0.0	0.0	0.0
		再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	97.3	78.7	108.5
					0.0	0.0	0.0
	中間処理後処分量 合計				97.3	78.7	108.5

	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R4年 処理量(t)	R5年 処理量(t)	R6年 処理量(t)
浄化槽清掃	浄化槽汚泥収集運搬（一般廃棄物）	浄化槽汚泥		8420.8	8368.0	8096.1

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■　確認を実施した環境関連法規

法令	対象施設・業種
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物収集運搬業
	一般廃棄物の処理
	産業廃棄物の処理
	特別管理産業廃棄物の処理
	産業廃棄物管理票
	雑則
	産業廃棄物処理業 （収集運搬、処分）
	特別管理産業廃棄物処理業 （収集運搬）
	産業廃棄物処理施設
福岡県廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行細則 （条例）	実績報告書の提出
建設工事に係る資源の再資源化等に関する法律	建設業
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律	作業車、営業車
水質汚濁防止法	機械潤滑油の流出防止
フロン排出抑制法	定格出力が 7.5kW 未満の業務用の エアコン等
自動車リサイクル法	廃車時
家電リサイクル法	家電の廃棄時
小型家電リサイクル法	小型家電の廃棄時
道路交通法	運搬車両、社用車
浄化槽法 （大牟田市浄化槽法施行細則） （大牟田市浄化槽保守点検業者の登録に関する条例）	浄化槽清掃業、保守点検業
毒物及び劇物取締法	衛生設備の詰まり補修等
上記に関する遵守チェック実施日	R6 年 12 月 30 日

■　評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

評価コメント
リストに記載した環境関連法規等について、書類の保管状況、遵守事項の実施状況、禁止事項の遵守状況等をチェックしました。 行政指導は受けておりません。

代表者による全体評価と見直しの結果

■ 全 体 評 価

● 環境への取り組みは適切に実施されているか

本年度は全ての項目において 90%以上の目標達成率を記録し、一定の成果を挙げることができました。これは、社員一人ひとりの環境への意識と日々の努力の積み重ねによるものです。しかしながら、目標を達成できていない項目があることも事実であり、この点は真摯に受け止め、今後の改善にしっかりと結びつけてまいります。目標を達成できなかった項目の中でも燃料使用量については、売上の増加に伴う業務量の拡大が主な要因であり、当社の業務特性上、業務量と燃料使用量には比例関係があることから、ある程度やむを得ない面があったと認識しています。一方で、廃棄物排出量の削減においては、日常的な削減活動の積み重ねが実を結び、目標を達成することができました。当社では毎年、取り組みの結果について評価・分析を行っており、こうしたプロセスを通じて、傾向や課題を的確に把握することができています。その結果、効果が確認された取組はさらに発展させ、取り組みを深化させており、継続的な改善の仕組みが確立されつつあります。こうした状況を総合的に踏まえ、当社の環境への取り組みは適切に実施されているものと考えております。

● 環境経営システムが有効に機能しているか

当社は、環境への配慮を企業経営の重要な柱と位置づけ、エコアクション 21 の考え方に基づいた活動を実践しています。現在、当社の環境経営システムは、有効に機能しており、目標の設定から進捗状況の確認、定期的な評価・見直しに至るまで、PDCA サイクルが確立され、継続的な改善につながっています。また、活動を進める中で発生した課題に対しても、柔軟かつ前向きに対応し、全社員の協力のもと改善策を講じてまいりました。今後も、持続可能な社会の実現に貢献すべく、地域社会との連携を大切にしながら、環境負荷の低減と企業価値の向上に努めてまいります。

■ 見直すべき点

● 環　境　経　営　方　針

変更の必要性：無し

● 環境経営目標・環境経営計画

変更の必要性：無し

● その他の環境経営システムの要素

変更の必要性：無し

□環境負荷、取組の自己チェック
□環境関連法気等の取りまとめ
□実施体制
□教育訓練
□環境コミュニケーション
□実施及び運用
□緊急事態への準備と評価
□問題点の是正処置
□文書及び記録の作成整理

代表取締役　久留須　智子

共栄環境開発株式会社

令和 6 年度　環境経営レポート